

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390810077		
法人名	NPO法人安暖手		
事業所名	グループホーム大道		
所在地	山鹿市方保田828-2		
自己評価作成日	令和6年2月28日	評価結果市町村受理日	令和6年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取りを終える度に沢山の学びを頂き、事業所理念である「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」が深まる機会になっています。いつかはやって来る「最期の時」を後悔しない為に利用者、ご家族、関わる誰もが大道でよかったと思って頂けるように毎日を大切に過しています。丁寧に人と向き合える事業所をみんなで作っていきます。地域との繋がりもこれからも継続して築いていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭に植えられた2本の記念樹(開設時の梅、法人変更の花みづき)に見守られながら、ホームでは入居者の【その一瞬一瞬を大切に共に生きる】の理念を掲げ、日常はもとより最終の支援に努めている。「心を込めたホームの看取り支援」を知り利用された方もおられる。今年度は最年少(小学5年生)で当法人の賛助会員となった少年の存在が新たな風を送っている。管理者は社会で働く大人として、未来を担う子ども達が、「こんな大人になりたい」そう思ってもらえるうしろ姿を伝えていきたいとしている。ホームの外周をトレーニングの一つとして歩かれる方を後ろから見守る職員のさりげない姿がこれまでの関係性を物語っている。入居者の食事への関わりも食材購入や下ごしらえに加え、監督や火番、味見など「私ならこれは出来る！」出番が用意されていることに職員の配慮が窺える。介護予防拠点事業「ご長寿学園」とともにグループホーム大道が家族や地域、ホーム愛犬など幅広い応援隊の支援を受けて、今後も信頼に応えていられる事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の振り返りを毎年行うことで日々のケアの際に意識をすることができる	管理者は法人を移行して一年余りが経ったことで、これまでの“入居者が中心”といった基本的な方向性はそのままに、新年度の会議で職員に新しい法人理念を検討したい旨を提案することとしている。ホーム理念はこれまで通り「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」であり、入居者にとってその日その時を大切にするとした内容となっている。	新たな法人理念が決まった際には、家族や地域などへ向け発信されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大きな行事は実施できていないが地域の子ども達との運動会、高校からの慰問、どんどやへの参加、回覧板、神社からのお札配布(購入)、等地域との関わりは日常になっている	ホームはこれまで地域やそこに暮らす人々とのつながりを大切に運営しており、回覧板を入居者と一緒に届けながら、収集した情報は外出先に反映している。地元商店街の一員としてフリーマーケットに参加し、家族や関係者が持ち寄った物品を販売しながら、地域の人々との交流を楽しむなど、新たな試みにも着手している。企画した運動会は近隣住民や子供たちが自然に加わり、予想以上の人々の協力に盛大に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やサロン活動、認知症サポートリーダー交流会、大道小学校への出前講座、山鹿市企業ガイダンスへ参加し認知症の方との暮らしをお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナやインフルエンザ等の感染状況に応じて会議を開催しており意見を頂く機会をもっている	運営推進会議本来の意義をしっかりと認識し、会議を通して入居者のありのままの姿や、職員のケア姿勢を参加者に評価してもらうようにしている。ホームの取組は広報紙や家族に届ける文章などで発信し、事故報告や身体拘束については「拘束はしない」というホームの基本的な考え方のもとに話をしている。参加できなかった家族へも報告を行い、内容を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問等がある時にはTEL及び訪問にて相談させて頂いている。サービス委員会や認定審査会等への協力により担当者と会う機会も多い	行政には何かあれば相談に応じてもらい、電話や直接出向いて信頼関係を築いている。事故報告書の提出や認定調査の対応、地域包括支援センターと協力しながら「認知症サポーター交流会」を企画・運営している。管理者自らも新年度早々発生した能登半島地震にボランティアとして出向き、被災した同業者のホームに入り入居者のケアにあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしないことを約束しており普段から不適切なケアについてをスタッフと共に検討する機会をもっている	職員の中にも身体拘束は行わない事が前提という認識が定着しており、普段のテレビ報道などから実例をもとに意見を出し合い、ホームや自身に置きかえながら振り返るようにしている。感知センサーを使用しているが、センサーの音に対応する際も、自然な形で居室を訪れるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止についての研修を行うことで普段のケアの見直しを行う機会に繋げている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設けており制度について知る機会になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの時点で現状の悩みや相談、不安についてもお尋ねするように心掛けている。待機の段階で定期的に状況把握のための確認をすることで不安の解消に繋がっているように感じる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議の際や普段からのご意見については記録に残し皆が共有できるようにしている	入居者は普段から行きたい所や食べたいもの、したいことなどを自身の言葉で話されており、家族の意見や要望とともに記録に残して検討している。コロナ感染症の5類移行を受けて、本年度は4年ぶりの家族との交流会(食事会)を行っている。更に企業基金の社会福祉助成事業に助成金を申請し、念願叶い浴室のリフトが設置されるなどホームに嬉しいプレゼントが届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の全体会議や普段から意見を聞くようにしている	月の全体会議は年間計画をもとに勉強会をメインに開催しており、職員や法人看護師、外部講師らが担当している。新年度の計画の一つに入居者、家族とのバス旅行をあげている。希望休、有給が取りやすい体制づくりに努めており、職員の状況をみて勤務形態の変更を行う等、無理のないように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り添えるようにしたいと努力はしているが本当の満足には至っていない(給与など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修等個人で積極的に参加するスタッフはかぎられている。法人内研修においてはスタッフに担当をお願いしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の行事や研修への協力を通して交流を深める機会にしている。今年は利用者、ご家族と共に江津湖での自然観察会へ参加した		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には本人を知るための「大切にしていることシート」を準備しご家族、ご本人に確認したり会話から拾ったりし共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で話をする機会をとるようにしている(申し込み時、状況把握のための電話、状態が変わった時のご家族からの連絡等)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに相談に来られた際でも医療依存度が高い場合や他の種類のサービスの情報提供が必要であれば紹介することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの相談にのって下さることや利用者と共に行事の計画をたてたり、利用者から着付けをして頂いたりと共に過ごす者同士の関係性を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「利用者にとっての大切な存在は絶対的にご家族である」ということを忘れずにケアしており役割が違う存在として認識している。最期はご家族との大切な時間を過ごし最期を迎える方も多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	築き上げた温泉施設や昔は良く行っていたデパート、美容室、実家や姉妹宅へ出かけたり大切な兄弟の葬儀に参列することもある。	入居者にとって大切な家族との関係性が途切れないように面会や記念の日の差し入れ、仏壇参りなどの一時帰宅を支援している。食事時になると入居者がリビングに集まり、下ごしらえの野菜切や小鉢のつぎ分け等を自ら手伝われている。入居者にとってホームでの生活そのものが馴染みであり、体調を崩された入居者をベッド横で見舞われるなど入居者同士のつながりが窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに共に暮らす者同士の関係性はしっかり出来ている。誰かが困っていると何かしらの手を差し伸べる利用者同士の関係性がある ホーム利用者の葬儀に参列された方もいらっしゃる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御命日には連絡をとったりお参りに伺ったりすることもある。行事やホームの草取りなどの協力を頂くこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず本人に希望や意向を確認することを忘れずにケアにつとめている	入居者は職員が改めて聞くこともなく、普段から自由に自身の思いを話されており、内容を共有しながら日々の支援に反映するようにしている。入居間もない方には職員や入居同士の関わりから、安心して溶け込んでもらい、隣の席の入居者と一緒に散歩に誘い、慣れて来られた中で改めて思いを引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はもちろん関係性が出来てからも会話の中から具体的に引き出すことを忘れなようにケアにあたっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できること・できないこと・わかること・わからないことシート」を使用し状態把握につとめている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはスタッフが行い普段の暮らしからの気づきは記録に残し共有するようにしている。ケアマネが定期的に集約しプラン作成に役立てている	職員を入居者の担当制としているが、モニタリングには全職員が関わり、日頃気づいた点を提案している。本年度は家族と交流の機会が持たれており、入居者の日頃の様子を間近に見てもらいながら、食事を共にする中で更に要望を尋ねている。看取り期のプランにも日常会話を通して、それとなく入居者自身がどうしたいか、周りに何をしてもらいたいかな等の声を拾い、できる限りの支援に努めている。プラン内容は全職員が共有できており、家族の了承が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はこまやかに記録に残し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用デイを開始しおひとりおひとりに応じたサービス時間やニーズに答えるようにしている (利用開始終了時間・夕食持ち帰り・カットを目的にホームに慣れる・ご家族付き添い食事等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの地域資源の把握には至らずだが必要に応じてその方の暮らしをさかのぼり情報収集していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続することが多いが必要に応じて往診対応の医療機関等情報の提供することもある。入所の際には挨拶に伺い退院前のカンファレンスへの参加も多い	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、訪問診療や家族、ホームによる受診外出が行われている。また、全員が訪問看護を受けており、入居者の日々の健康管理が家族の安心や職員にとっても心強いものとなっている。専門医についても家族やホームで対応されている。看取り期に入った際は、協力医による支援が得られることとなっている。歯科は希望者のみ訪問診療にて必要な治療や口腔ケアが行われている。	職員は日頃の関わりの中から些細な変化も見逃さず、職員間で共有を図り体重測定は個々に応じた頻度(毎月や毎日)で実施されている。今後も本人や家族の意向を大切に適切な医療支援を継続されることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/週の訪問看護との医療連携における健康チェックをはじめ普段から相談にのっていただく機会も多い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所時のサマリーを、退院前には状態把握のための訪問や退院時サマリーなど医療機関との連携につとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに際しては本人の意向はもちろんだがご家族の気持ちが整うまで丁寧に関わりを持つようにしている。ご本人ももちろんだが私達スタッフもご家族との大切な時間になる場合が多い	入居時に重度化・終末期支援に関する意向を確認している。その時点では「まだまだ分からない…」との返答も多いが、いつ何が起こるか分からない重要な内容であり、タイミングを見ながら再度聞き取る事としている。ホームの方針「心を込めての看取り」を知り、当ホームを利用される方もおられる。この一年では3名の方の最終を支援している。まだコロナ感染症の心配がある中でも、家族が宿泊されたり、家族や友人、知人、親類などそれぞれにとって大切な方が面会され見送られている。	「本人の思いに沿っていく」ことを職員はこれまでの支援を経験し、身に着ける事が出来ていると管理者は語っている。本人を偲び綴られた文章には入居時からの思い出や写真が掲載され、ホームにご縁を持ってくださったことへの感謝で結ばれている。「終末期には特に食べたいものを食べられるしこ(食べきれ分)」自己評価からもホームの姿勢が窺われる。今後も「心を込めての看取り」は変わらないことと感じとれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護の協力を得て勉強会を実施し緊急時の対応がスムーズに出来るように努力している	/		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に災害支援に行く機会もあり実践に即したBCPの策定を急ぎたい	年2回の訓練を実施している。衛生用品や水、パン、マフィンなどの食料を含めた備品は駐車場スペースにある倉庫で管理されている。ホーム内の安全チェックは意識を持って取り組んでいる。BCPIについては、現在完成間近である。	今後の訓練では夜間を想定し実施する事が必要と思われる。また、BCPの作成終了後は職員間での共有が期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としてそれぞれの存在を尊重し対応している。居室への出入りも本人へのお断りを頂くようにしている	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援については、入浴や排せつ、食事などを含め、個々に応じて支援されていることが聞き取りや記録からも確認された。身だしなみやおしゃれについても、一緒に衣服を選び、着る順番に重ねておくなどプランにも記されている。居室はその方の家であり了承のもと入室しており、職員の守秘義務の徹底も行われている。また個人情報の使用については本人・家族の承諾得、面会簿についても個別記入で管理されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは意思を確認し受け入れがあった時にはケアを実施することを続けることでご自身の希望を表す利用者が多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の「今」を大切に過ごしている。希望があった時に出来るだけ早く希望に添えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には男性はひげそり、女性は鏡を見ながら自身で整髪したり化粧水をつけたりとそれぞれの方法を支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、後片付け、茶碗拭きなどそれぞれの役割をもち作業をしている(下ごしらえ。調理作業。監督。火の番、味見など)	献立は入居者の希望を聞きながら立てており、食材購入は地域のスーパーに時には入居者も同行したり、家族や地域の方からの野菜を活用し季節の一品とし提供されている。プランにも盛り込まれた「食事を美味しく食べる」取組として、料理の味はもちろん、入居者の出番(できる事で入居者にも食に関わってもらう)、音や匂いを間近に感じてもらったり、職員の語り掛けなど様々な工夫がなされている。現在はミキサー食の方はおられず、一口大など個々に応じた食形態で準備されている。	開設時から職員による手作りの料理の提供が継続されている。入居者の出番も下ごしらえや調理、茶わん拭きなどに限らず、監督や火番、味見など先人の知恵を活かした役割である。今後も入居者にとって楽しみな食事支援が継続されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が減ってこられた際には好みのものやその時のその方にヒットする食べ物を探し勧めている (終末期には特に食べたいものを食べれるしこ)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診を依頼している利用者もいらっしゃるが普段は食後のケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてタイミングをみると同時に利用者の仕草や表情等からのトイレへのお誘いも気を付けている	自立の方の継続や排泄チェック表を活用しながらタイミングや表情、しぐさなどから察し、その方の安心される声掛け・誘導が行われている。排泄用品も昼夜での使い分けや、その日その日の本人の体調などにも配慮して支援されている。またトイレも行ける日、行けない日など個々の状態を全職員で共有し細やかに支援している。「トイレですっきり排泄が出来ると快適に過ごすことができる」プランの中にも記されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトの継続、水分チェック表を用いて水分不足に気をつけつつ玄米パックでの温めや体操の機会を設けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	完全に希望通りではないが出来る限り要望に添えるように努力中。入浴回数は個人によってさまざまである(2~毎日/週)	本人の希望や体調に配慮しながら週2回~毎日の入浴支援が行われている。これまでの習慣から朝風呂を希望される方もおられるが、現在は人員配置の面から難しく午後からの入浴としているが、職員としても要望を叶えていきたいとしている。拒否がある場合には、タイミングを見ながら毎日準備しており、入浴できない時は清拭などを含め清潔保持に努めている。リフト浴(腰掛式)を導入する際は、実際業者のデモンストレーションを受け、入居者に体験してもらい判断している。これまで浸かる事が難しかった方も大変喜ばれているようである。	朝風呂への希望や毎日の入浴等、一人ひとりのこれまでの習慣や要望に応えたいとする職員の思いが聞かれた。ホームの庭には柚子が実をならせることから冬至の湯に利用されている。今後も一人ひとりの入居者にとって楽しみとなる入浴支援の継続に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員が決まったスケジュールで動くのではなく個々に応じたスケジュールを尊重している(起床はバラバラ)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理日誌があり処方事に内容を確認し記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近隣の高校の郷土芸能伝承部から慰問に来て頂いた際には利用者（日舞師範）。スタッフ着付けにて皆で浴衣に着替え一緒に山鹿灯籠踊りを踊ることができた		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話から行きたい場所ややりたいこと等しっかり聞き逃すことのないようにしている。実際に声が上がった場所にはご家族の協力を得て出かけることもある	入居者の外出への希望は普段の会話の中から収集し、職員間で共有を図りながら実現が出来るよう努力している。近隣の散歩は継続して取り組んでおり、ホーム外周を散歩される方や玄関先、ウッドデッキでの外気浴などは日常生活の一つとなっている。馴染みの地域行事、どんどやには数名の方が参加し壮大な光景やおもてなしなど地域、消防の方々などに感謝し帰園されている。我が家への帰省は入居者の願いであり、正月の外出や外泊など家族へ声を掛けている。また、江津湖へのドライブ外出には家族の参加も得られており、今後も家族の協力を得た外出支援に取り組みたいとしている。	家族との外出は入居者にとって何より嬉しい取り組みと思われ、今後はバス旅行なども予定したいとしている。実現に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な金額を持っておられる方や預り金でスタッフが管理したりとさまざまである		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者もおられる。手紙を頂いた際には返事をかける方は書き、動画を使って返事を届けたりとその方に合わせてフォローする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所やリビングには季節の花を飾ったり季節を感じることができるよう配慮する。リビングから眺める不動岩やウッドデッキからも梅(開設記念)きんもくせい(猫ちゃんお骨)はなみずき(法人変更記念)が見えるようになっている	ホーム内には敷地内や散歩中に摘んだ草花などが飾られており季節を感じる事が出来る。食事やレクリエーションなど日中の活動の場である食堂・居間をはじめ、ウッドデッキや地域交流室などは日光浴の場所にもなっている。家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう、ホーム内は飾りつけなどで華美にならないよう配慮しており、調理の音や匂いを一緒に楽しんでいく。馬の好きな方に競走馬のカレンダーを職員が準備し掲示している。ホームの愛犬はセラピーの役割も果たしている。	新聞を読むことを日課とされている方や職員も入居者と一緒に腰を下ろし話をする光景などホームの日常が窺えた。変わらに支援に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを数か所設置しその時の利用者の気持ちに添った場所を提供できるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ大切なものを持ってこられている(亡きご主人の写真・仏壇・ご自身の書・絵手紙など)	入居の際慣れ親しんだ物を持ち込んで欲しいと伝えているが、中には自宅にまだ色々置いたままにしておきたいという本人の気持ちをくみ取りながら必要な物から持ち込んでもらっている。これまで居室として使っていた部屋の採光不足を検討し、新たな部屋を居室として整備して届け出ている。仏壇や位牌、遺影など心の拠り所になる品や、塗り絵や書、職員とのやり取りを文字にしたものなど、その方のこれまでやホームでの今が伝わる居室が作られている。また、これまでの習慣で就寝前にテレビを見てやすまれる方もおられるなど、自宅の延長の生活が支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が何かしらの行動をしようとした場合にすぐに声をかけるのではなくまずは見守り、必要があればフォローするように心掛けている		